

2022年9月29日

やまぎん企業景況サーベイ

(2022年7-9月)

<新型コロナウイルス感染拡大の影響に関する特別調査>

～企業の景況感は、コスト上昇圧力の強まりを受けて小幅悪化～

「やまぎん企業景況サーベイ」は、企業の景況感を明らかにすることを目的に、山形県内に本社および事業所を有する企業を対象として四半期ごとに実施している調査です。

各種の経済活動が新型コロナウイルス感染症の影響を受けている現状を把握するため、「新型コロナウイルス感染拡大に関する特別調査」も同時実施しております。

【調査要領】

対象期間 2022年7-9月
調査期間 2022年8月2日～25日
有効回答数 499社/600社（回答率 83.2%）

【調査方法】

山形銀行本支店を通じアンケート用紙を配布・回収、もしくはオンライン回答による。

【集計・分析方法】

県内企業の業況、生産・販売等の状況は、「BSI（Business Survey Index）」を用いて表します。

①業況判断 BSI<前年同期比>

前年（2021年7-9月）に比べ業況が「良化する」企業の割合－「悪化する」企業の割合

②売上高 BSI<前年同期比>

前年（2021年7-9月）に比べ売上高が「増加する」企業の割合－「減少する」企業の割合

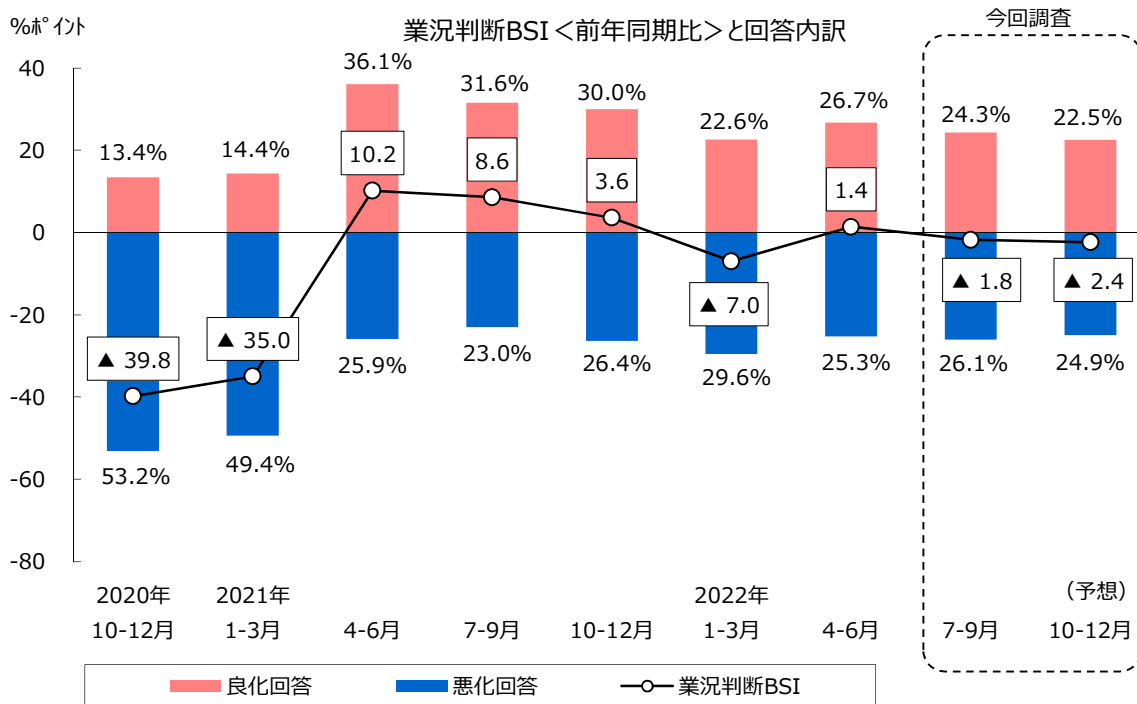
③雇用判断 BSI

従業員数の水準について「多い」とする企業の割合－「少ない」とする企業の割合

やまぎん情報開発研究所
(山形銀行 営業支援部)

1. 業況判断 B S I <前年同期比>

～製造業、非製造業ともにコスト上昇をうけて小幅悪化～



(1) 全産業ベースの動向

業況判断 BSI<前年同期比><前年同期(2021年7-9月)に比べ業況が「良化する」企業の割合-「悪化する」企業の割合>は、前回調査(2022年4-6月)に比べ-3.2ポイントの▲1.8で、2期ぶりに低下し再び「悪化超」となった。前回調査時点の予想では改善が続く見込みであったものの、製造業、非製造業ともに下方修正されている。世界的なインフレと円安進行をうけ、資源をはじめとする輸入品価格が高騰するなかで、販売価格への転嫁が進まず、企業収益への下押しが強まっている。ただし、一部では調達難や生産調整の影響が徐々に薄れていることや、今年3月以降の行動規制の緩和を好感する業種もみられ、業種ごとの方向感のばらつきもやや目立った。

こうしたなか、2022年10-12月の予想は、今回調査比-0.6ポイントの▲2.4で、非製造業を中心に小幅ながら悪化が続く見通しとなっている。

(2) 業種別の動向

以下では、業種別のBSI水準に応じて下表のような天気マークを用いて表現した。

BSIの値	マーク
50以上	晴れ
15以上50未満	曇り一部晴れ
▲15超15未満	曇り
▲50超▲15以下	曇り一部雨
▲50以下	雨

業種	2021年					2022年				
	時期	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	前回比	10-12月	今回比
全産業		10.2	8.6	3.6	▲7.0	1.4	▲1.8	▼ -3.2	▲2.4	▼ -0.6

① 製造業

業況判断 BSI<前年同期比>を業種別にみると、製造業は前环比-2.4ポイントの1.8となった。6期連続で「良化超」を維持しており一定の底堅さがうかがえるとはいえ、4期連続の低下となっている。内訳をみると、9業種のうち低下が5業種、上昇が3業種、横ばいが1業種とばらつきが目立った。

食料品・飲料 土産品向け等で売上高が増加する半面、原材料や光熱費の高騰が業況の重しとなる企業が増え、全体ではBSIは横ばい。

繊維・衣服 百貨店販売の持ち直しやアパレルメーカーの在庫調整が進んだことなどをうけてBSIは大幅に上昇し、3期ぶりに「良化超」に。

木材・家具 首都圏等で大口案件がみられることもあって、BSIの水準は「良化超」を維持し

ているものの、ウッドショックによる収益面への悪影響が増し、前环比では大幅に低下。

窯業・土石 原材料価格の上昇に加えて、公共工事の減少が影響している企業もみられ、コンクリート製品を中心にBSIは大きく低下。

鉄鋼・金属 コロナ禍の影響により後ろ倒しとなっていた分の受注増などで上昇に転じ、BSIは全業種中最も高水準となった。



























































































電気機械 BSIは3期ぶりに上昇したものの、依然「悪化超」となっている。部材調達難が続いているほか、スマートフォン向け電子部品の受注に増勢鈍化の動きもみられる。

一般機械 半導体製造装置関連を中心に受注は堅調で、BSIも「良化超」を維持しているが、部材調達難が続き4期連続で低下している。

輸送機械 中国におけるロックダウンの影響

業種別の業況判断BSI<前年同期比>

(予想)

業種	2021年		2022年			前环比		今回比	
	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	今回比	
製造業	 15.0	 24.9	 17.6	 4.7	 4.2	 1.8	 -2.4	 3.3	 +1.5
食料品・飲料	 10.3	 ▲ 9.6	 ▲ 5.3	 ▲ 17.3	 0.0	 0.0	 ±0.0	 ▲ 5.4	 -5.4
繊維・衣服	 ▲ 60.0	 36.3	 38.4	 ▲ 20.0	 ▲ 15.4	 23.1	 +38.5	 38.4	 +15.3
木材・家具	 ▲ 9.1	 30.0	 41.6	 0.0	 42.8	 7.7	 -35.1	 ▲ 30.8	 -38.5
窯業・土石	 ▲ 22.2	 ▲ 12.5	 0.0	 ▲ 33.3	 10.0	 ▲ 10.0	 -20.0	 30.0	 +40.0
鉄鋼・金属	 13.3	 29.5	 47.4	 9.1	 ▲ 11.7	 41.2	 +52.9	 23.5	 -17.7
電気機械	 14.3	 9.1	 11.6	 11.5	 ▲ 7.1	 ▲ 3.5	 +3.6	 ▲ 13.8	 -10.3
一般機械	 28.6	 45.3	 28.8	 24.3	 17.8	 4.1	 -13.7	 12.5	 +8.4
輸送機械	 50.0	 53.4	 0.0	 33.4	 12.5	 7.7	 -4.8	 15.4	 +7.7
その他製造業	 31.3	 43.3	 10.0	 0.0	 ▲ 6.4	 ▲ 25.0	 -18.6	 ▲ 9.4	 +15.6

は薄らいだものの、半導体不足等による生産調整が長期化しており、BSIは2期連続で低下。

その他製造業 印刷、プラスチック製品などを中心にコスト上昇圧力の強まりから4期連続で低下し、BSIは全業種中最も低水準となった。

2022年10-12月の予想については、製造業は今回調査比+1.5ポイントの3.3となり、小幅ながら5期ぶりに上昇に転じる見込み。ただし、上昇予想は今回調査の低下業種を中心とした5業種で、期待含みの部分も大きいと考えられる。

② 非製造業

非製造業は前回は-3.8ポイントの▲4.5で2期ぶりに低下した。また、5期連続で「悪化超」の水準となっており、前年比では製造業よりも厳しい状況が続いている。内訳をみると、前回は6業種のうち低下が4業種、上昇が2業種となった。

建設業・不動産業 公共工事の受注動向等が地域・企業ごとに二極化しており、全体ではBSIはほぼ横ばいで、3期連続の「悪化超」。

運輸業 旅客輸送では持ち直しが続いているものの、貨物輸送に伸び悩みの動きがみられ、

BSIは「良化超」ながら2期ぶりに低下。

卸売業 一部販売品の調達難が続いていることに加え、取引先企業との関係から仕入価格の上昇を販売価格に転嫁できていない企業が多く、BSIは2期ぶりに低下し「悪化超」となった。

小売業 生産調整が続く自動車のほか、スーパー等でも値上がり等により販売不振の動きがみられ、BSIは横ばいに近い動きながら非製造業では最も低水準となった。
































































旅館・ホテル、飲食業 人件費や光熱費の上昇による影響が大きく、4期ぶりに低下。ただし、前年を上回る売上となっている企業が多く、BSIは非製造業の中で最も高い水準を維持。

サービス業・その他 行動規制の緩和等をうけて、個人向けサービスを中心に非製造業で唯一2期連続で上昇している。

2022年10-12月の予想については、非製造業は同-2.2ポイントの▲6.7で、2期連続で低下する見込み。価格転嫁の進展への期待から卸売業、小売業は上昇予想となっているものの、物価上昇による消費マインドの弱含みも懸念され、全体では小幅な悪化が続く見込みである。

業種別の業況判断BSI<前年同期比>

(予想)

業種	2021年		2022年			前回は		10-12月	
	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	前回は	10-12月	今回比
非製造業	6.6 	▲ 3.9 	▲ 7.1 	▲ 15.1 	▲ 0.7 	▲ 4.5 	前回は -3.8 	▲ 6.7 	-2.2 
建設業・不動産業	▲ 1.3 	▲ 1.2 	2.3 	▲ 6.7 	▲ 12.2 	▲ 11.5 	+0.7 	▲ 13.6 	-2.1 
運輸業	31.6 	▲ 5.3 	▲ 12.5 	▲ 21.4 	15.8 	11.1 	-4.7 	11.1 	±0.0 
卸売業	0.0 	▲ 6.6 	▲ 11.3 	▲ 18.7 	5.8 	▲ 12.3 	-18.1 	▲ 10.8 	+1.5 
小売業	22.5 	▲ 2.6 	▲ 28.6 	▲ 35.0 	▲ 19.6 	▲ 20.4 	-0.8 	▲ 16.3 	+4.1 
旅館・ホテル、飲食業	15.4 	▲ 40.0 	▲ 33.3 	0.0 	50.0 	40.0 	-10.0 	25.0 	-15.0 
サービス業・その他	2.5 	7.1 	14.7 	▲ 7.9 	6.8 	10.8 	+4.0 	2.2 	-8.6 

(3) 地区別の動向

業況判断BSI<前年同期比>を地区別にみると、庄内地区が9.6、西部地区と北部地区が0.0、置賜地区が▲5.8、山形地区が▲7.2の順になり、前回は3地区が低下、2地区が上昇した。この結果、「悪化超」は前回調査と同様に2地区となった。

地区別の内訳

地区	市町村
山形地区	山形市、上市市
置賜地区	米沢市、長井市、南陽市、高島町、川西町、小国町、白鷹町、飯豊町
西部地区	寒河江市、山辺町、中山町、河北町、西川町、朝日町、大江町
北部地区	村山市、天童市、東根市、尾花沢市、大石田町、新庄市、金山町、最上町、舟形町、真室川町、大蔵村、鮭川村、戸沢村
庄内地区	鶴岡市、酒田市、庄内町、三川町、遊佐町

① 山形地区

前回比-6.6ポイントの▲7.2で、2期ぶりに低下し3期連続で「悪化超」となっている。特に製造業が一般機械、輸送機械、その他製造

業を中心に大きく低下している。

② 置賜地区

前回比-5.8ポイントの▲5.8で、2期ぶりに低下し再び「悪化超」となっている。卸売業、小売業を中心に非製造業の低下が目立ち、非製造業のBSIは全地区中最も低水準となっている。

③ 西部地区

前回比+11.1ポイントの0.0となり、4期ぶりに上昇。行動規制の緩和等をうけて、食料品・飲料や繊維・衣服などを中心とする製造業が大きく上昇し、全体を押し上げた。

④ 北部地区










































前回比-13.7ポイントの0.0で、全地区中唯一4期連続の低下となっている。一般機械、輸送機械などを中心に製造業の悪化が続くなか、非製造業も3期ぶりに低下に転じている。

⑤ 庄内地区

前回比+8.3ポイントの9.6となり、2期連続で上昇。製造業は詳細業種をみても総じて改善傾向を示しており、製造業のBSIは全地区中最も高水準となった。

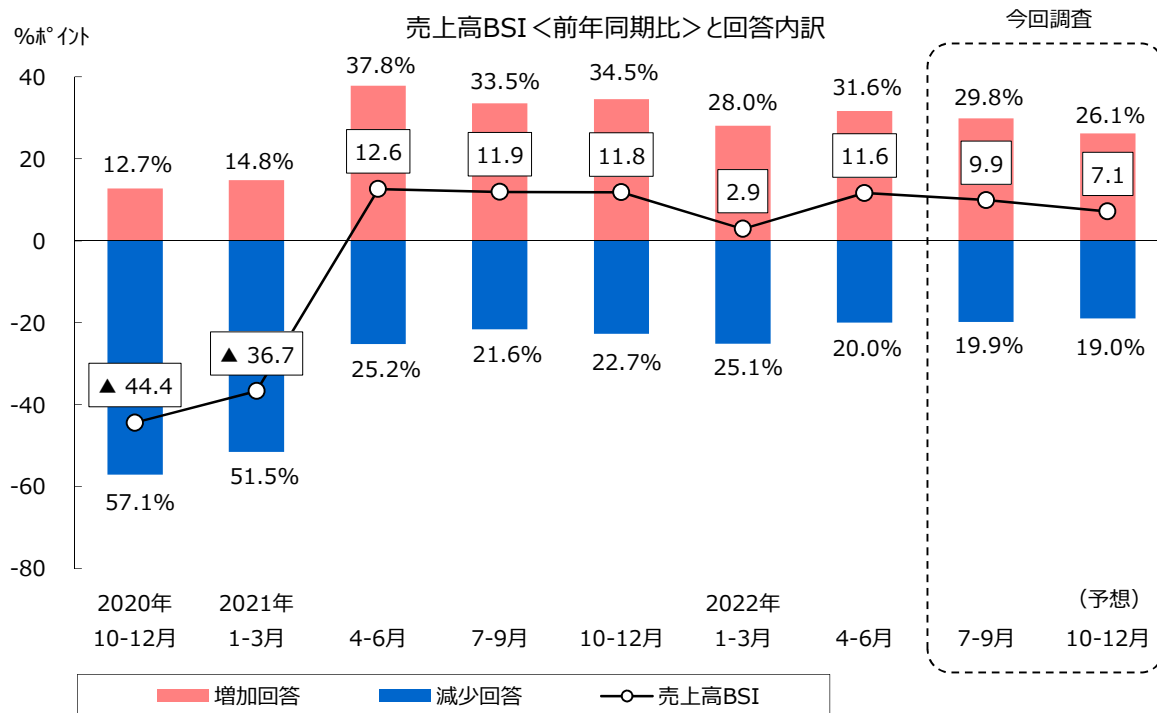
地区別の業況判断BSI<前年同期比>

(予想)

地区	時期	2021年					2022年				
		4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	前回比	10-12月	今回比	
山形地区											
		18.9	4.8	2.9	▲ 15.1	▲ 0.6	▲ 7.2	-6.6	▲ 7.9	-0.7	
	製造業	26.9	22.9	2.1	▲ 14.3	3.7	▲ 10.3	-14.0	▲ 8.2	+2.1	
非製造業	15.1	▲ 4.1	3.3	▲ 15.5	▲ 2.6	▲ 5.7	-3.1	▲ 7.8	-2.1		
置賜地区											
		▲ 1.2	7.5	▲ 3.0	▲ 16.1	0.0	▲ 5.8	-5.8	▲ 5.8	±0.0	
	製造業	2.2	25.0	11.1	2.5	1.9	▲ 1.8	-3.7	▲ 1.8	±0.0	
非製造業	▲ 4.8	▲ 11.1	▲ 19.2	▲ 35.0	▲ 2.1	▲ 10.8	-8.7	▲ 10.6	+0.2		
西部地区											
		13.4	17.8	3.6	▲ 8.6	▲ 11.1	0.0	+11.1	▲ 17.0	-17.0	
	製造業	29.6	44.5	37.9	20.0	▲ 14.8	3.9	+18.7	▲ 7.7	-11.6	
非製造業	▲ 11.1	▲ 22.2	▲ 34.7	▲ 40.9	▲ 7.4	▲ 3.7	+3.7	▲ 25.9	-22.2		
北部地区											
		8.3	18.4	16.5	15.6	13.7	0.0	-13.7	8.5	+8.5	
	製造業	12.2	23.2	31.1	17.5	12.0	0.0	-12.0	9.8	+9.8	
非製造業	4.6	13.7	2.2	13.9	15.5	0.0	-15.5	7.3	+7.3		
庄内地区											
		5.1	1.2	▲ 1.2	▲ 6.1	1.3	9.6	+8.3	7.3	-2.3	
	製造業	3.7	12.9	14.3	4.2	13.3	30.0	+16.7	31.1	+1.1	
非製造業	5.9	▲ 6.0	▲ 8.6	▲ 11.9	▲ 6.1	▲ 1.9	+4.2	▲ 5.6	-3.7		

2. 売上高BSI <前年同期比>

～6期連続で「増加超」となっているが、非製造業は弱含み～



(1) 全産業ベースの動向

売上高 BSI <前年同期比>は、前回調査 (2021年 4-6月) に比べ1.7ポイントの 9.9 となり、業況判断 BSI と同様に 2 期ぶりに低下した。内訳をみると、減少回答割合は前回とほぼ同水準であるものの、増加回答割合が低下しており、一定の底堅さを維持しつつも売上高が伸び悩みとなっている様子が見えてくる。また、業況判断 BSI と売上高 BSI のギャップ (業況判断 BSI - 売上高 BSI) は▲11.7 で、調査開始以来最低となった。売上高が一定の底堅さを維持する一方、コスト上昇圧力の高まり等による業況への下押しがさらに強まっている。

2022年 10-12月の予想については、今回調査比-2.8ポイントの 7.1 で、2期連続での低下が見込まれている。

(2) 業種別の動向

業種別に売上高 BSI をみると、製造業については前回比+3.6ポイントの 18.3 で 2期連続の上昇、非製造業は同-5.7ポイントの 3.5 で再び低下し、異なる方向感を示した。

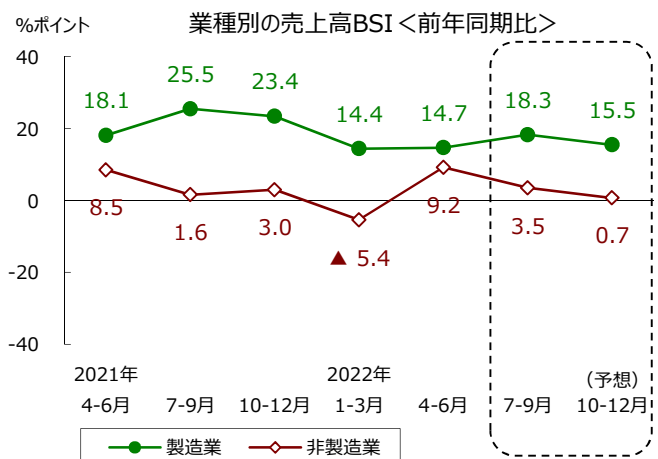
① 製造業

前回比では 9 業種中上昇と低下が 4 業種ずつ、横ばいが 1 業種とばらついているが、全業種が「増加超」となり底堅さを維持。

② 非製造業

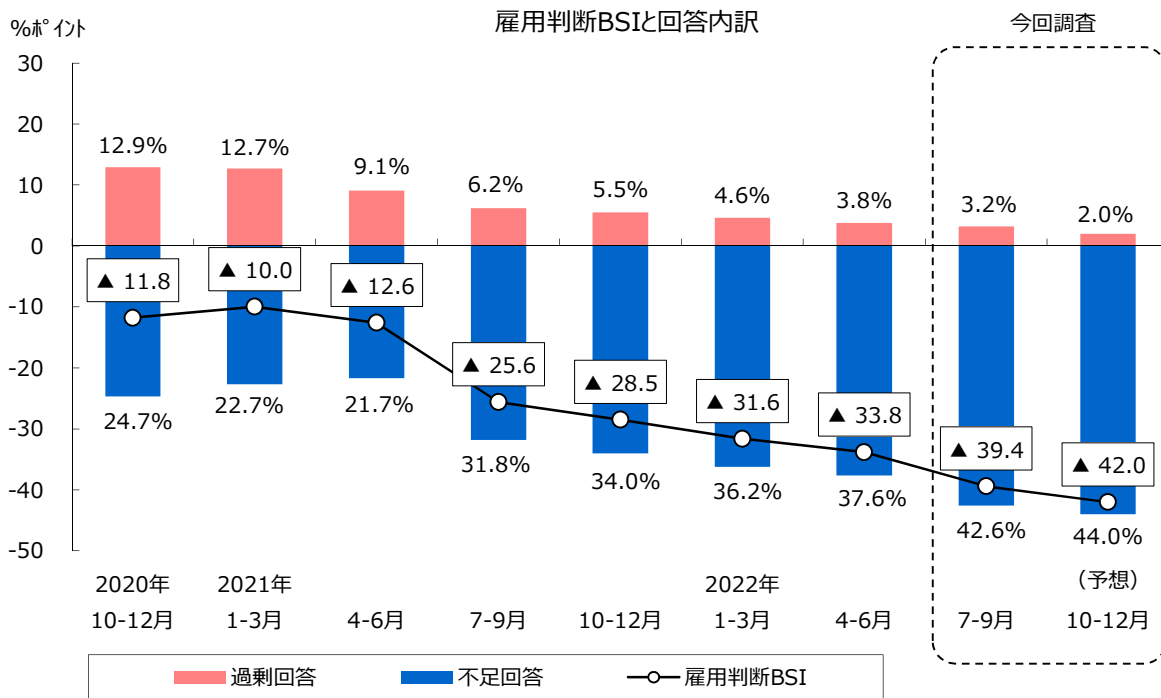
前回比では 6 業種中 4 業種が低下し、「減少超」が 3 業種に増えるなど、製造業に比べ売上高の伸び悩みが目立った。

2022年 10-12月の予想は、製造業が今回調査比-2.8ポイントの 15.5 で、非製造業も同-2.8ポイントの 0.7 となる見込み。



3. 雇用判断BSI

～調査開始以来最低水準となり、人手不足感がさらに強まる～



(1) 全産業ベースの動向

従業員数の水準（パート・アルバイト等を含む）については、「多い」とする企業の割合が3.2%、「適正」が54.2%、「少ない」が42.6%となり、雇用判断BSIは前回比-5.6ポイントの▲39.4で、6期連続の低下となっている。これは、調査開始以来の最低水準であり、コロナ禍前をさらに上回る人手不足感となっている。

こうしたなか、2022年10-12月の予想については、今回調査比-2.6ポイントの▲42.0で、人手不足感が一層強まる見通し。

(2) 業種別の動向

業種別にみると、製造業は前回比-4.1ポイントの▲28.3で2期ぶりに低下。非製造業は同一-6.8ポイントの▲47.6となり2期連続で大きく低下し、過去最低水準となった。

① 製造業

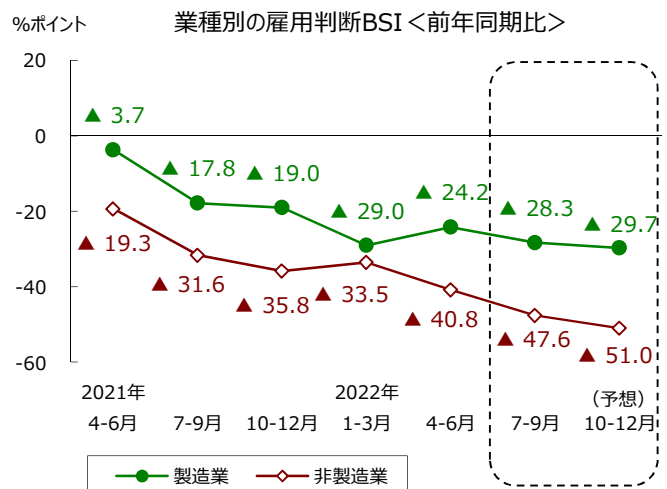
前回比では9業種中5業種が低下したが、季節的な繁閑もやや影響し3業種が上昇、1業種が横ばいとなった。BSIは前回同様に窯業・土石を

除きすべて「不足超」となった。

② 非製造業

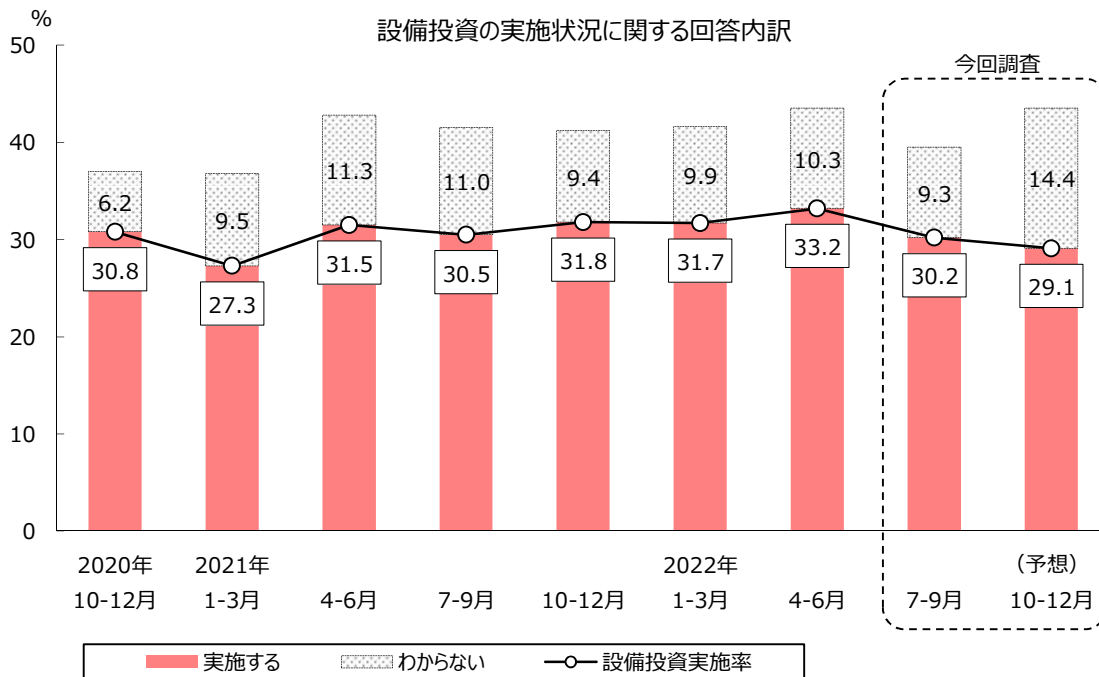
前回比では6業種中5業種が低下し、1業種が上昇した。全業種が大幅な「不足超」となっているが、運輸業は▲72.2、旅館・ホテル、飲食業▲65.0と特に人手不足感が強まっている。

2022年10-12月の予想については、製造業が今回調査比-1.4ポイントの▲29.7、非製造業が同一-3.4ポイントの▲51.0と、いずれも低下が続く見込みである。



4. 設備投資実施率

～製造業は上昇、非製造業は低下するなど二極化～



(1) 全産業ベースの動向

2022年7-9月に生産・営業用設備への投資を実施するかどうかについてたずねたところ、「実施する」との回答割合(設備投資実施率)は前回比-3.0ポイントの30.2%で、2期ぶりに低下した。しかしながら、水準としては前年同期(30.5%)とほぼ同水準であり、前回調査がコロナ禍以降で最も高い設備投資実施率であったことを考慮すれば、投資一巡感はありながらも比較的底堅さを維持していると考えられる。

2022年10-12月の予想については、設備投資実施率は今回調査比-1.1ポイントの29.1%となる見込み。予想時点ですでに高い実施率が示されていることから、計画確定に伴い今回調査よりもさらに高い実施率となる可能性が高い。

(2) 業種別の動向

業種別にみると、製造業は前回比+1.7ポイントの35.8%で2期ぶりに上昇し、高水準での推移が続いている。一方、非製造業については同-6.5ポイントの26.0%で、前回調査で高水準となった反動もあって2021年1-3月以来

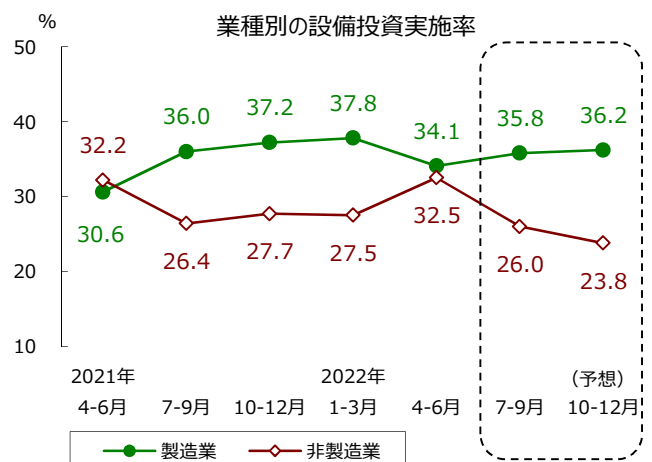
の低水準となった。また、先行きについても製造業は上昇、非製造業は低下見込みとなるなど、方向感の二極化が続く見通し。

① 製造業

輸送機械が46.2%で最も高く、次いで食料品・飲料が43.2%、窯業・土石が40.0%、電気機械が37.9%の順になった。

② 非製造業

運輸業が61.1%で最も高くなったが、次いで小売業が26.5%、サービス業・その他が26.1%の順で、運輸業以外は低水準となった。

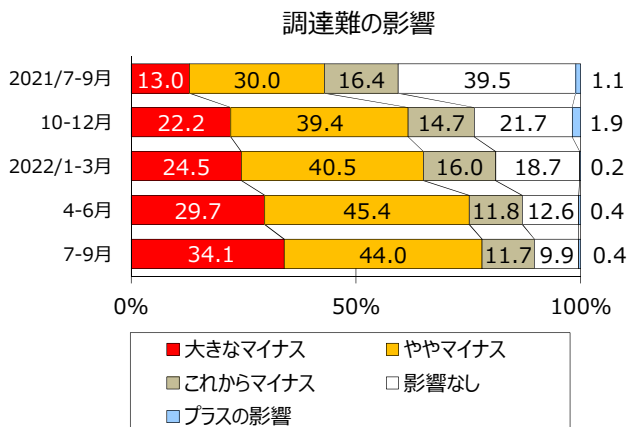


5. 調達難の影響

～マイナスの影響をうける企業の割合は約8割に～

(1) 調達難による影響度合い

2022年7-9月において、様々な調達難が業況に影響を与えているかどうかたずねたところ、全体では「大きなマイナスの影響がある」が34.1%、「ややマイナスの影響がある」が44.0%、「あまり影響はないが、これからマイナスの影響が出る可能性がある」が11.7%、「あまり影響はない」が9.9%、「マイナスもあるが、全体としてはプラスの影響が大きい」が0.4%となった。マイナスの影響があるとする割合(「大きなマイナス」+「ややマイナス」)は調査を重ねるごとに上昇しており、今回調査で78.1%に達している。

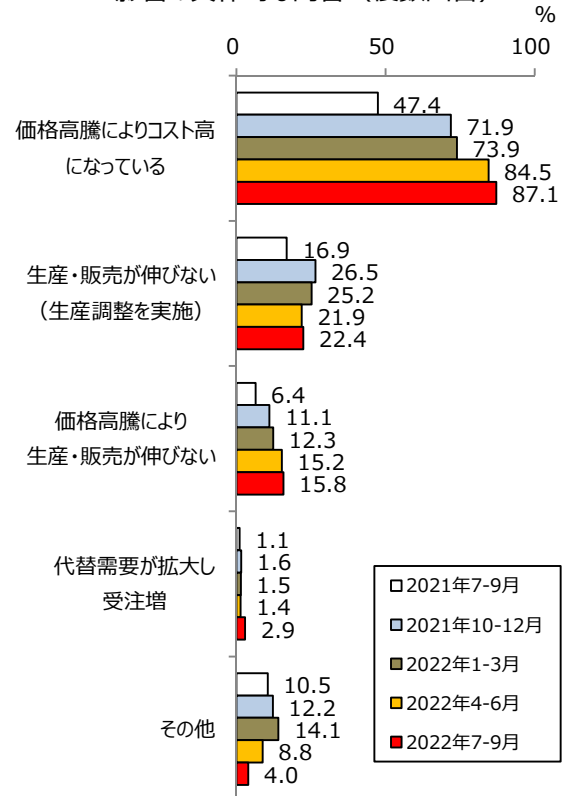


(2) 調達難による影響の具体的な内容

調達難による影響をうけているとする企業に、具体的な影響(複数回答)についてきいたところ、「価格が高騰しコスト高となっている」が87.1%となっており、次いで「生産・販売が伸びない(生産調整を実施)」が22.4%、「価格が高騰し生産・販売が伸びない」が15.8%の順に高くなった。

「価格が高騰しコスト高となっている」との回答割合は、製造業、非製造業ともに小幅ながら前回調査から一段と上昇し、詳細業種をみてもすべてで6割を超えている。なかでも、木材・家具製造業、窯業・土石製造業、電気機械製造業、運輸業などの上昇が特に目立っている。しかしながら、食料品・飲料製造業や卸売業、

影響の具体的な内容(複数回答)



小売業については前回比で低下する動きもみられ、コスト高に対応した価格転嫁が徐々に実施されている様子が見える。ただし、これらの業種については、「価格高騰により生産・販売が伸びない」との回答割合が上昇する傾向となっている。

また、「生産・販売が伸びない(生産調整を実施)」との回答割合は、前回までは低下傾向であったが、今回調査でわずかながら再び上昇する動きとなった。これまで半導体不足等による大手メーカーの生産調整の影響を大きく受けてきた輸送機械、電気機械、一般機械などの製造業種は総じて低下したが、食料品・飲料製造業、繊維・衣服製造業、プラスチック製品などを中心とするその他製造業、卸売業などで上昇する動きがみられる。これらのなかには、「代替需要が拡大し受注増となっている」との回答割合が上昇している業種もあり、代替需要で受注増となっているものの、それに対応しきれず収益機会を逸している状況が垣間見える。

6. 新型コロナウイルス感染拡大の影響に関する特別調査

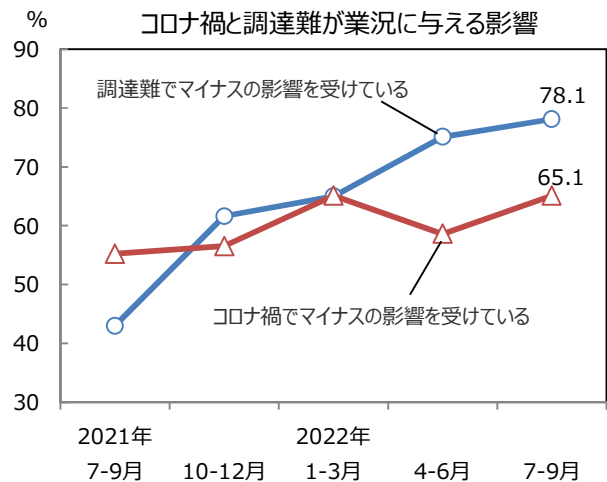
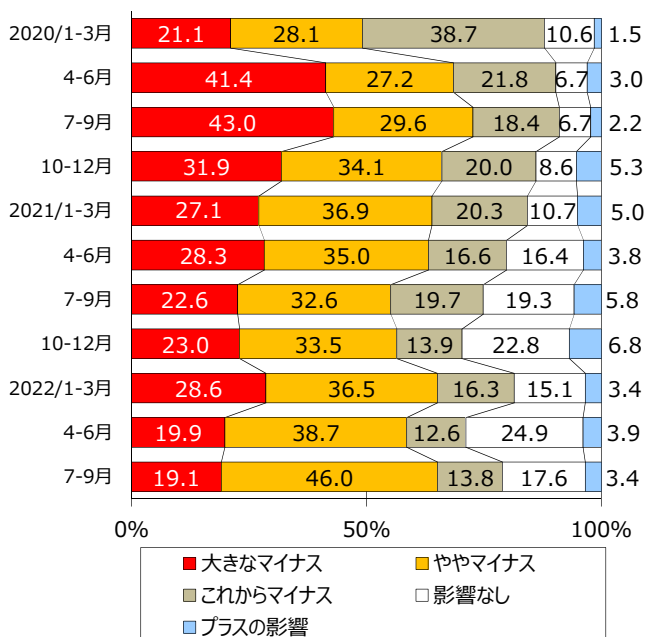
～感染再拡大で影響のすそ野も再拡大、影響度合いは軽減～

(1) 新型コロナウイルス感染拡大の影響

2022年7-9月において、新型コロナウイルスの感染拡大が業況に影響を与えているかどうかたずねたところ、「大きなマイナスの影響がある」が19.1%、「ややマイナスの影響がある」が46.0%、「あまり影響はないが、これからマイナスの影響が出る可能性がある」が13.8%、「あまり影響はない」が17.6%、「マイナスもあるが、全体としてはプラスの影響が大きい」が3.4%となった。

マイナスの影響があるとする割合（「大きなマイナス」+「ややマイナス」）は65.1%で、国内第7波となる感染拡大をうけて、前々回調査(2022年1-3月)と同水準まで再び上昇している。ただし、「大きなマイナス」とする割合は引き続き低下し、2020年1-3月の調査開始以来の最低水準を更新している。「大きなマイナス」が低下した業種は、製造業では木材・家具、電気機械、一般機械、輸送機械、非製造業では卸売業、小売業となっており、中国におけるロックダウン等のサプライチェーンを通じた悪影響や、外出自粛等による悪影響の度合いは軽減傾向にあるものとみられる。

新型コロナウイルスの感染拡大が業況に与える影響

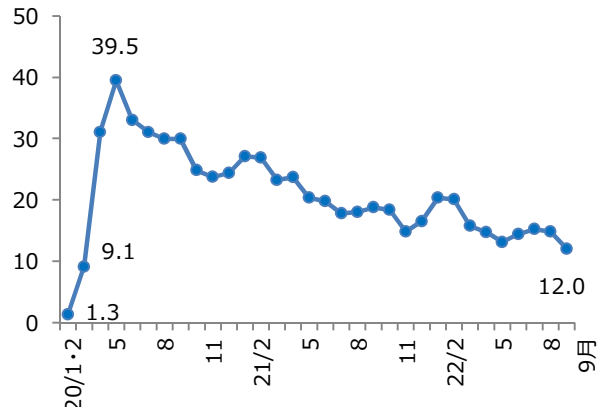


なお、前出の調達難が業況に与える影響と比較すると、コロナ禍によるマイナスの影響が65.1%であるのに対し、調達難によるマイナスの影響は78.1%で、前回調査に引き続き、コロナ禍による悪影響の割合が調達難による悪影響の割合を下回る結果となった。

(2) 営業体制について

新型コロナウイルスの感染拡大によって、休業や従業員の一時帰休、時短営業など、広義の雇用調整(在宅勤務や配置転換などは除く)を実施しているとする回答割合は、2022年6月(再集計)が14.4%、7月が15.2%、8月が14.8%、9月が12.0%となる見込み。感染再拡大をうけ、直近では2022年5月の13.1%を底として再び上昇する動きとなったものの、国内第6波のピークであった2022年1月、2月と比較しても低い水準にとどまっている。以上

広義の雇用調整を実施する企業の割合



参考：業種別総括表

2022年7-9月

業種	時期 集計社数	業況判断 BSI		売上高 BSI		雇用判断 BSI		設備投資 実施率 (%)	
		前回比	前回比	前回比	前回比	前回比	前回比		
全産業	499	▲ 1.8	-3.2	9.9	-1.7	▲ 39.4	-5.6	30.2	-3.0
		▲ 2.4	-0.6	7.1	-2.8	▲ 42.0	-2.6	29.1	-1.1
製造業	213	1.8	-2.4	18.3	+3.6	▲ 28.3	-4.1	35.8	+1.7
		3.3	+1.5	15.5	-2.8	▲ 29.7	-1.4	36.2	+0.4
食料品・飲料	37	0.0	±0.0	21.6	+2.7	▲ 13.5	+5.4	43.2	-2.7
		▲ 5.4	-5.4	16.2	-5.4	▲ 24.3	-10.8	45.9	+2.7
繊維・衣服	13	23.1	+38.5	53.8	+53.8	▲ 46.2	-15.4	25.0	+9.6
		38.4	+15.3	53.8	±0.0	▲ 53.8	-7.6	38.5	+13.5
木材・家具	13	7.7	-35.1	38.4	-18.8	▲ 23.1	-8.8	23.1	+8.8
		▲ 30.8	-38.5	0.0	-38.4	▲ 15.4	+7.7	15.4	-7.7
窯業・土石	10	▲ 10.0	-20.0	20.0	±0.0	0.0	±0.0	40.0	+10.0
		30.0	+40.0	40.0	+20.0	0.0	±0.0	30.0	-10.0
鉄鋼・金属	17	41.2	+52.9	35.3	+29.5	▲ 47.1	-11.8	35.3	±0.0
		23.5	-17.7	23.5	-11.8	▲ 41.2	+5.9	41.2	+5.9
電気機械	29	▲ 3.5	+3.6	3.5	-3.6	▲ 10.8	+10.7	37.9	-1.4
		▲ 13.8	-10.3	0.0	-3.5	▲ 20.7	-9.9	34.5	-3.4
一般機械	49	4.1	-13.7	14.3	-3.5	▲ 44.9	-11.5	30.6	-5.0
		12.5	+8.4	14.3	±0.0	▲ 39.6	+5.3	40.8	+10.2
輸送機械	13	7.7	-4.8	15.4	+9.2	▲ 61.5	-36.5	46.2	-3.8
		15.4	+7.7	7.7	-7.7	▲ 61.5	±0.0	23.1	-23.1
その他製造業	32	▲ 25.0	-18.6	3.1	-3.3	▲ 15.6	+6.9	37.5	+14.9
		▲ 9.4	+15.6	12.5	+9.4	▲ 15.6	±0.0	31.3	-6.2
非製造業	286	▲ 4.5	-3.8	3.5	-5.7	▲ 47.6	-6.8	26.0	-6.5
		▲ 6.7	-2.2	0.7	-2.8	▲ 51.0	-3.4	23.8	-2.2
建設業・ 不動産業	88	▲ 11.5	+0.7	▲ 12.6	-1.5	▲ 54.6	-7.9	25.3	-11.8
		▲ 13.6	-2.1	▲ 12.5	+0.1	▲ 59.1	-4.5	21.6	-3.7
運輸業	18	11.1	-4.7	38.8	-3.3	▲ 72.2	-9.0	61.1	-7.3
		11.1	±0.0	33.3	-5.5	▲ 77.8	-5.6	50.0	-11.1
卸売業	65	▲ 12.3	-18.1	▲ 4.6	-17.9	▲ 35.4	-4.5	16.9	-3.7
		▲ 10.8	+1.5	1.5	+6.1	▲ 38.5	-3.1	16.9	±0.0
小売業	49	▲ 20.4	-0.8	▲ 12.2	-16.6	▲ 34.7	-13.5	26.5	+1.0
		▲ 16.3	+4.1	▲ 16.4	-4.2	▲ 34.7	±0.0	20.4	-6.1
旅館・ホテル、 飲食業	20	40.0	-10.0	60.0	+10.0	▲ 65.0	-15.0	25.0	-6.3
		25.0	-15.0	35.0	-25.0	▲ 70.0	-5.0	40.0	+15.0
サービス業 ・その他	46	10.8	+4.0	23.9	+3.4	▲ 47.9	+4.4	26.1	-8.0
		2.2	-8.6	15.2	-8.7	▲ 52.1	-4.2	23.9	-2.2

上段…2022年7-9月、下段…2022年10-12月予想